

# 大志を育む



平成 28 年 12 月 13 日  
(教職員向け)  
教育委員会だより  
No. 10

発行：北広島市教育委員会

## 「30年後の日本は、多文化・多言語・多民族」・・・英語教育の動向

北広島市教育委員会 学校教育課 特別支援教育アドバイザー 荒木 実千子

現在、日本で英語を使う機会は限られています。しかし30年後、今、学校で学ぶ児童生徒が社会に出る頃には、日本は多文化・多言語・多民族の人たちが、協調したり、競争したりする世の中になるそうです。

<b>英語教育の動向</b>	■「 <u>世界と戦える人材を育てる</u> 」「 <u>グローバル化等に対応する人材力の強化</u> 」等を目指して、東京オリンピック・パラリンピックを迎える2020(平成32)年を見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化などの充実を図る。
<b>学習指導要領改定の基本方針</b>	■ <u>グローバル化や人工知能の進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を、子どもたち一人一人に確実に育む学校教育を実現することを基本方針としている。</u>
<b>小学校の英語教育</b>	■5・6年生は「読む」「書く」を含む教科で週2コマ程度。 <u>初歩的な英語の運用能力を養う。</u> 3・4年生は外国語活動で週1コマ程度。英語の音声や表現に慣れさせ、 <u>コミュニケーション能力の素地を養う。</u> 授業時数は3～6年生で週1コマ増えるが他の教科を削減しないため時間の確保が課題。指導教員や外部人材の確保も急務で認定講習を開設。
<b>中学校の英語教育</b>	■英語の授業は原則英語で行い、 <u>身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う。</u> 着実な英語力向上のため、「全国学力・学習状況調査」で、英語4技能を測る調査を平成31年(30年は予備調査)から3年に一度程度実施する方向。

グローバル化の進展の中で、英語力の向上は日本の将来にとって重要な課題となります。

外国語として英語を使う人口は、英語を母国語とする人口を超え、子どもたちが将来、英語で話す相手は、英米の人だけでなく、アジア、アフリカ、南アメリカ、ヨーロッパの人々など、全世界に広がります。子どもたちは、多様な人々と共生することが必要になるため、自分で考え、判断し、伝えたい内容をきちんと持ち、多様なコミュニケーションができる人を育てることが重要です。

(参考文献: 文部科学省HP・Benesse 教育総合研究所)

<b>小学校外国語活動巡回指導教員</b> 大曲東小 堂山早苗 教諭	<b>H28 英語教育推進リーダー中央研修受講</b> 西の里中 吉村やよい 教諭	<b>H27 英語教育推進リーダー中央研修受講</b> 東部小 玉田充幸 教諭
北広島市での外国語巡回指導も、あと4ヶ月で終わろうとしております。この間、初めての事業にも関わらず、多くの方々のご協力を頂いた事にお礼申し上げます。担任の先生方と指導法について話し合う中で、まず指導書の授業の組み立て方をベースにいろいろなアクティビティを実践すること、そして工夫を重ねていくことを確認することができました。英語力や失敗を恐れず、チャレンジしていきましょう。	中央研修では、主に「英語を英語で教えること」について学びました。とてもハードルが高いことのように思いますが、決して教師が高いレベルの英語をペラペラと話すのではなく、あくまでも生徒を授業の主役にするための指示をするということです。キーワードは、“simple”、“short”、“clear”、「簡単に」「短く」「はっきりと」です。難しく考えすぎず、これらをヒントとしてActive Learningの授業作りを工夫していきましょう。	今年8月、英語教育の中核となる教員を対象に、英語指導力の向上を図る研修会がありました。その中で、3つの視点について説明させて頂きました。①児童の実態や場面に応じた柔軟な歌の指導。②子供たちを物語の世界に引き込み、聞く力などを向上させる絵本指導。③アクティビティのメリットとデメリットを把握し、活動の意図を明確化した授業。この視点を大事に共により良い授業のために研鑽を続けていきましょう。



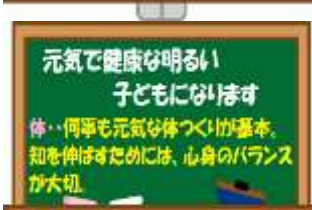
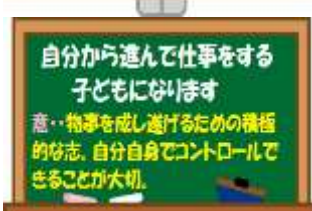
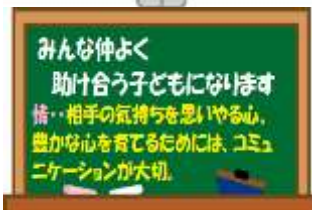
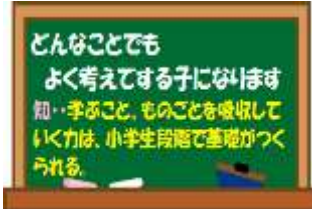
# 東部小学校の特色ある実践



本校は北広島開拓の祖・和田郁次郎翁が開設した私設学校をもとに、明治25年10月に簡易教育所として開設した学校です。以来、北広島開拓の歴史とともに歩み、北広島の学校教育を支えて、今年度で開校124周年を迎えました。

## 《学校教育目標と目指す子ども像》

『私たちは 仲よく 強く 明るくのびる 東小のよい子です』



開校120周年をふまえ、学校課題を「新たな伝統を築き、互いを尊重し、共に支えあう子どもの育成を目指して」とし、取り組みを進めています。今年度は『あいさつ』『家庭学習』『仕事』を重点として、全教職員で力を注いでいるところです。

## 家庭・地域との連携

学校支援地域本部等と連携して、地域のさまざまな人材を活用させていただいて教育活動を進めています。それ以外に東部小独自で、図書ボランティアやスキーボランティアなど、どちらも家庭だけでなく地域の方にもご協力をいただいています。

### 《図書ボランティア・たんぽぽ》



年度初めに全家庭に呼びかけ、ボランティアを募集しています。今年度も20名以上の登録があり、月2回程度、図書ボランティア「たんぽぽ」として、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいています。そのほか、図書室の整理や季節に合わせた飾りつけなども行っていただいています。毎回、子どもたちも楽しみにしています。

### 《スキーボランティア》



冬季の体育をスケート授業からスキー授業に切り替えた際に、ボランティアを募集し、スキー学習の補助をしていただいています。1・2年生のグラウンドの雪山や全学年のゲレンデでのスキー指導にお手伝いをいただいています。子どもたちもよく知っている方に来ていただき、学習効果も上がっています。おかげでスキーの技術もどんどん向上しています。昨年度は延べ70人以上の方にご協力いただきました。

## 幼保小の連携

福祉学習やキャリア教育の一環として、地域の特養老人ホームや札幌養護学校共栄分校、保育園・幼稚園の訪問を行っています。訪問を通して、思いやりの心を育んだり、社会的・職業的の自立に向けた意欲や態度・能力の育成を図ったりしています。これ以外にも各学年で工夫した交流を行っています。



《特養老人ホーム訪問・4年》

緑の苑を訪問して、施設を見学させてもらったり、歌やリコーダーの演奏をしたりして、お年寄りとの交流を行ってきました。



《共栄分校訪問・4年》

居住地交流で交流している札幌養護学校共栄分校を訪問して、なかよくなった子どもたちとの交流をしています。



《保育園・幼稚園訪問・5年》

保育園や幼稚園を訪問して、園児と交流してきました。この中から将来の保育士・先生が誕生するかもしれません。



《保育園・幼稚園訪問・かがやきルーム》

地域の福祉施設や保育園・幼稚園と交流しています。さまざまな人とコミュニケーションを図る機会となっています。